

ようが散策POINT紹介

一

大山道追分

文政10年(1827)、ここには高さ120cmの道しるべの石塔が建っていたそうです。正面には庚申塔、右江戸道、左世田谷四谷道と書いてありました。当時、用賀村の中心でにぎわっていました。この道しるべは世田谷区立郷土資料館に展示されています。



二

玉電用賀駅

明治40年(1904)4月~昭和44年(1969)5月までタマデンの愛称で親しまれた玉川電車の用賀駅がありました。また、ガタゴトと路面を走る電車で、多摩川の砂利も運んでいたため、ジャリデンと呼ばれていました。



三

飯田楼

かつて大山道沿いにあった旅館。大正頃に飯島旅館となり、近くにあった陸軍自動車学校の、地方出身の兵士の家族がよく宿泊しました。その後この場所は、美容室や呉服屋(越後屋)等いろいろなお店が出店されました。

四

火の見櫓

大正2年、玉川村に消防組が編成され、第1部消防組を用賀が受け持ちました。高さ15mの鉄製のやぐらが建てられましたが、昭和10年(1935)年に解体されました。



七

田中橋

谷沢川を挟んで両側一帯は田んぼだったので、村人はこの橋を田んぼの中の橋、「田中橋」と呼ぶようになりました。



六

真福寺

大山道沿いに赤い山門があり赤門寺とも呼ばれていました。今から約400年前に飯田図書という人が開きました。ご本尊は大日如来さまです。



五

用賀神社

その昔、神明社といい八幡社や上用賀にあった天神社も合祀されています。菅原道真が祭られていて受験生にも御利益があるといわれ、お参りに来ます。



九

水道みち

大正時代、渋谷方面へ水道を引くため、水道管を埋めた場所です。水道は多摩川の水を汲み上げ、岡本、用賀、桜新町を経て駒沢の給水塔に一度溜め、高さを利用して渋谷の方へ送られていました。



八

無量寺

今から400年位前、光蓮社明譽寿広和尚が開山した寺です。ご本尊は阿弥陀さまで、観音堂には用賀の高橋六右衛門尉直住が、夢のお告げにより納めたと伝えられる木彫りの十一面観世音菩薩が安置されています。本堂前の大銀杏は樹齢百年を超え、世田谷百景の一つに選ばれています。

